

# 水のみち部門

## みんなで考える「あらつハザードマップ」 ～福岡市の浸水対策を素材とした教育の取り組み～

福岡教育大学附属福岡小学校

### 教育の目標

- 主体性** 地方公共団体が浸水被害対策を進めていることに関心を持ち、日頃からの防災意識を育てる。
- 創造性** 既存の資料から、地方公共団体が行っている対策や、啓発等を調べ、自然災害防止と国民の協力について理解することができる。
- 感動性** 小集団で結論・根拠・理由を明確にし、考えを高め合う良さを実感できる。

### 授業風景

#### であう



自然災害を調べる

#### 問題を話し合う



#### さぐる

#### 浸水対策の講義



浸透実験の実践

#### いかす



あらつハザードマップ発表

#### 危険箇所の確認



福岡教育大学附属福岡小学校では、「浸水被害から福岡市民を救え！～地下から安全を見守る二つのレインボープラン」と題して、福岡市の浸水対策事業を素材としたカリキュラムを組み立て、5年生の社会科の時間を利用し、学習に取り組んでみました。

生活に密接する、「浸水対策」を教材とすることで、課題の解決意欲を喚起でき、また、浸水対策事業を実施している福岡市と連携し、現場の生の声を取り入れることで、費用効果や安全性といった社会的視点から課題に取り組むことができ、さらに、「あらつハザードマップ」の作成を行うことにより、生徒自らの防災意識の向上や市政の取り組みを身近なものとして感じる事が出来る良い実践例となっています。